

ろくもんの世界によろこ

マロネロ 38

今回夏休みを利用して長野県にある、しなの鉄道の観光列車「ろくもん」に乗車した。なかなか興味深い列車であるため乗車レポートの形で書かせていただく。

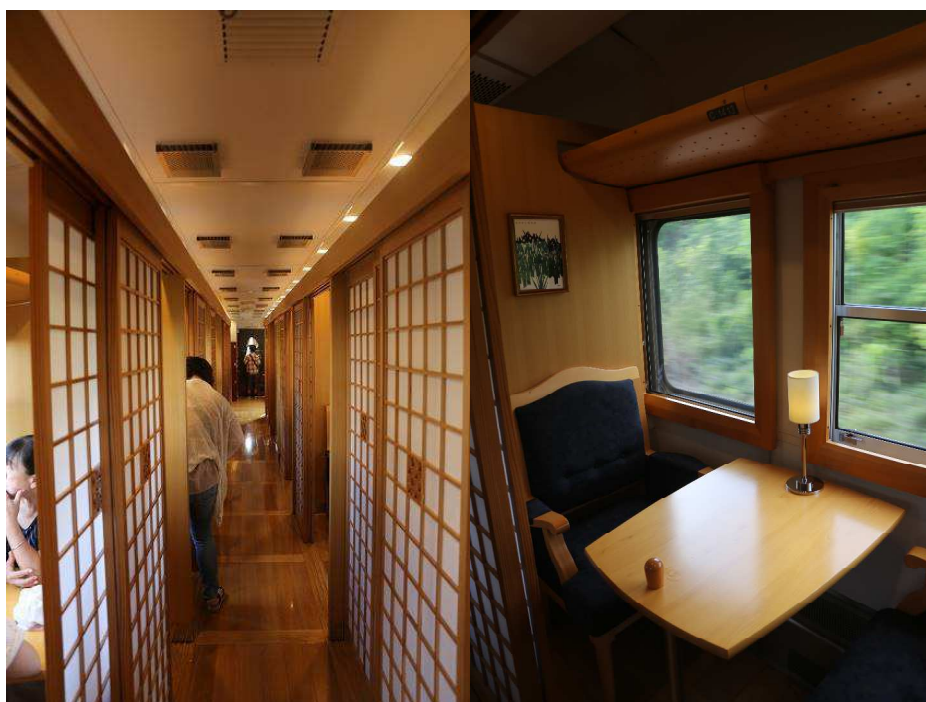
8/13 お盆真っ只中の焼き付けるような暑さの日、私は小諸駅 3 番線にいた。軽井沢からの「ろくもん 3 号」に乗るためだ。列車がホームに入ってきた。その車体は真田の赤甲冑をイメージした、赤茶けた独特な色である。また真田の家紋である六文銭が金色で至るところに描かれている。



ドア前に立っているアテンダントさんに切符を見せると席まで案内してくれるようだ。小諸で乗車したのは私のグループのみで人気があると想像しただけに少し驚いた。「ろくもん」は 3 両編成で長野よりが 3 号車になる。今回は 3 号車進行方向左よりの 15C と 16C に乗車した。すぐに出発したが足回りは種車と変わっていないので発車したときにがたつくのが気になる。また和の雰囲気を出しつつ車内にジャズが流れるなど意外さもある。静かさを重視したためか、車内のスピーカーの数が少なく案内が聞こえにくかった。これは人によって感じ方が違うだろう。乗客は家族連れが数組の他は鉄道好きと思われる 1 人客とカップル、中年夫婦と様々。

小諸の次は田中に停車する。田んぼの中の小駅でなぜここで止まるのか疑問だ

がダイヤの都合だろうか。ここで新幹線連絡で上田にいる前列車の発車待ちを行った。上田到着直前には進行方向左側の本社前で社員さんが手を振ってくれる。他の停車駅のなかでも主要駅で同様のことをしてくれる。上田や屋代で駅員やアテンダントさん総出で車内の荷物をホームに運び出すのが印象に残った。改札に赤甲冑が立っている屋代を出るとしばらくして千曲川を渡る。ここで列車は徐行してくれるので写真が撮りやすい。車内の撮影や取材をしているうちに時間はたち 17:38 に長野駅 6 番線に入線、あっという間であった。車内設備を説明しよう。



3号車は中央に通路を配置し両側に1対1のボックスが並ぶ構造。通路との間は3枚の障子で区切られていてそれを寄せて出入りする。前位側のドア脇にはソファが設置されている。固定式の机は十分な大きさがあり、卓上灯が設置されている。ブラインドは戸袋窓以外はフリーストップのすだれだ。後位側には大型トイレ、通路を挟んで反対側にのれんで隠された車販準備室がある。またこれは各車に言えるが元の車体構造を極力残しているため一部（戸袋窓など）を除いて窓が開く。また種車は片側3ドアだが中央ドアを閉鎖して2ドアとなっている。貫通路と運転台ドア前はこのれんがかかる。



2号車は前位側の車端部とドアの間にカウンターがあってドリンク類や弁当を販売する。座席配置は前から右側窓を向く形でカウンター席が5人分。4人のボックス席が1つ、2人がけのソファー席が3つとなっている。こちらは木とガラスのパーテーションで区切られている。左側は車内中央を軸として点対称となっているが車幅の関係で2人のボックス席になっている。各席には折りたたみ式のテーブルが設置されている。



後位側車端部は3人がけのソファー席でテーブルもある。



テーブルの上には制帽があってポスタープレートとともに記念写真を撮ることが出来る。また座席端に柄入りの風防を取り付けてドアから吹き込む風に対応している。

1号車にもカウンターがあり記念品を扱うが料金は結構高い。車内では中央に設置された木のボールプールが目を引く。通路とは透明なアクリルで遮断されているほか、絵本棚もある。それをはさむ形で4人がけと2人がけのボックスが並ぶ。なお両先頭車とも運転台機器などに違いはなかった。ろくもんでも1号と2号では1号車と2号車を対象に地元のレストランのシェフが乗り込み料理を味わえる。だが3号はそれらが無いため開放席の1、2号車は空席が目立った。



この「ろくもん」の切符はしなの鉄道の主要駅窓口のほか、JTBで購入できる。軽井沢を起点に通常ダイヤでは1.5往復しているため、東京から新幹線での乗り継ぎが便利かと思う。終点の長野からは飯山線の「おいこっと」、さらに「おいこっと」の終点の十日町で「越乃 Shukura」が接続する。これらの観光列車を組み合わせると楽しむのが手だ。東京から軽井沢まで1時間とかがからないので乗りやすい観光列車ではないだろうか。